

2022年度4月入学  
2021年度10月入学  
東北大学大学院経済学研究科  
会計専門職専攻筆答試験

「会計学」

第1問から第3問に解答しなさい。第1問は答案紙1に、第2問は答案紙2に、第3問は答案紙3に解答しなさい。答案紙の右上に答案紙の番号が記載されている。また、解答はすべて解答欄の範囲内で記述しなさい。

数値の記入にあたっては、必ず3桁ずつ桁区切りをつけること。

※ 試験終了後、答案紙以外は持ち帰ること。

2021年度10月入学

2022年度 4月入学

東北大学大学院経済学研究科

## 会計専門職専攻筆答試験問題「会計学」

第1問 問1、問2の両方に解答しなさい。

問1 以下の文章を読んで、設問1から設問3のすべてに解答しなさい。

現行の企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」では、次の事項が定められている。まず、連結貸借対照表の作成にあたっては、支配獲得日において、子会社の資産及び負債のすべてを支配獲得日の（ア）により評価する方法①により評価する。また、親会社の子会社に対する投資とこれに対応する子会社の資本は相殺消去するが、親会社の子会社に対する投資とこれに対応する子会社の資本との相殺消去にあたり、差額が生じる場合には、当該差額を（イ）または負の（イ）とする。そして、連結会社相互間の取引によって取得した棚卸資産、固定資産その他の資産に含まれる（ウ）は、（原則として）その全額を消去する②。

設問1 （ア）（イ）（ウ）に当てはまる語句を以下から一つ選んで答えなさい。なお、同じ語句を複数回選択できるものとする。

帳簿価額	税効果	評価差額	のれん
未実現損益	非支配株主持分	時価	資本剰余金

設問2 下線部①の評価方法について、連結財務諸表を誰のために作成するのかという観点にもとづいて説明しなさい。なお解答にあたっては、会計基準で採用される①の方法とは異なる立場の考え方や方法を挙げながら説明すること。

設問3 連結財務諸表の作成にあたって、下線部②のように処理する理由を説明しなさい。

問2 設問1から設問4のすべてに解答しなさい。

設問1 有形固定資産の取得原価を耐用年数にわたって減価償却する理由を説明しなさい。

設問2 貸倒引当金を設定すべき金額の算定方法を説明しなさい。

設問3 外貨建債権債務に対する為替予約の振当処理を説明しなさい。

設問4 会社法において株主へ配当できる額が制限される理由を説明しなさい。

第2問 問1、問2の両方に解答しなさい。計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を切り捨てること。なお、便宜上金額は小さくしてある。

問1 下記の(1)から(3)の取引すべてについて仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は勘定科目一覧の中から最適なものを選んで勘定科目名で解答することとし、仕訳が不要な場合は「仕訳なし」と解答すること。

勘定科目一覧

現	金	当	座	預	金	売	掛	金
買	掛	金	備	品	建	設	仮	勘
国庫補助金受贈益		固	定	資	産	圧	縮	損
減	価	償	却	費	リ	ー	ス	資
リ	ー	ス	資	産	支	払	利	息
支	払	リ	ー	ス	料	未	払	リ
資	本	準	備	金	そ	の	他	資
繰	越	利	益	剰	余	金	未	払
								配
								当
								金
								自
								己
								株
								式

- (1) 国からの補助金¥100,000を活用して備品を¥400,000で購入し、代金は翌月に支払うことにした。また、この備品について補助金に相当する額の圧縮記帳（直接減額方式）を行った。なお、この補助金は期中に受け取ったものであり、補助金を受け取った時に必要な仕訳は既に適正に実施されている。
- (2) X0年4月1日に契約した備品のリース契約（ファイナンス・リース取引に該当）に基づいて、X1年3月31日に1回目のリース料を契約どおりに小切手を振り出して支払った。また、決算にあたり、耐用年数5年、残存価額ゼロとして定額法で当該備品の減価償却を併せて行った。なお、当該備品の見積現金購入価額は¥500,000、リース期間は5年間、リース料は年額¥110,000（毎年3月末日払い）であり、利子抜き法（利息相当額を定額法で配分する方法）によって処理すること。
- (3) 株主総会において、現金による配当¥400,000（その他資本剰余金から¥100,000、繰越利益剰余金から¥300,000）を行うことを決定し、配当金の10分の1の金額を準備金として積み立てた。

問2 [資料1]と[資料2]に基づいて、次の貸借対照表の空欄のうち①から⑮に当てはまる勘定科目ないし金額を解答しなさい。税効果会計は適用しない。当期はX1年3月31日に終了する1年である。なお、( )内の空欄の金額は各自推定すること。

貸 借 対 照 表

X1年3月31日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
I 流動資産		I 流動負債	
1. 現金預金	( ① )	1. 買掛金	( )
2. 売掛金	( )	2. 未払金	( )
貸倒引当金	( )	3. 未払費用	( ⑩ )
3. 商品	( ③ )	4. 短期借入金	( )
4. 前払費用	( )	流動負債合計	( )
流動資産合計	( )	II 固定負債	
II 固定資産		1. 長期借入金	
1. 有形固定資産		固定負債合計	( )
(1) 建物	300,000	負債合計	( ⑪ )
減価償却累計額	( )	純 資 産 の 部	
(2) 備品	200,000	I 株主資本	
減価償却累計額	( )	1. 資本金	225,000
有形固定資産合計	( )	2. 利益剰余金	
2. 投資その他の資産		(1) 利益準備金	120,000
(1) 投資有価証券	( ⑥ )	(2) 繰越利益剰余金	( ⑫ )
(2) ( ⑦ )	( ⑧ )	II 評価・換算差額等	
投資その他の資産合計	( )	1. ( ⑬ )	( ⑭ )
固定資産合計	( )	純資産合計	( ⑮ )
資産合計	( ⑨ )	負債・純資産合計	( )

[資料1] 決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表		
X1年3月31日		(単位：円)
借方	勘定科目	貸方
156,000	現 金 預 金	
240,000	売 掛 金	
382,400	満期保有目的債券	
450,000	そ の 他 有 価 証 券	
200,000	繰 越 商 品	
300,000	建 物	
200,000	備 品	
	買 掛 金	188,000
	貸 倒 引 当 金	2,600
	建物減価償却累計額	50,000
	備品減価償却累計額	87,500
	借 入 金	340,000
	資 本 金	225,000
	利 益 準 備 金	120,000
	繰越利益剰余金	893,900
	売 上	1,123,000
680,000	仕 入	
400,000	給 料	
15,000	保 険 料	
6,600	支 払 利 息	
3,030,000		3,030,000

[資料2] 決算整理事項

1. 当座預金について次の事実が判明した。

- (1) 決算日までに売掛金¥40,000の振込があったが、当社未達のため未記帳であった。
- (2) 買掛金¥20,000の決済のために振り出した小切手があるが、決算日現在、取引先がいまだ銀行に持ち込んでいなかった。
- (3) 広告宣伝費¥10,000の支払いのために振り出した小切手が、振出時に減額記帳しているものの未渡しであった。

2. 売上債権の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を差額補充法によって計上する。
3. 期末商品棚卸高は次のとおりである。

帳簿棚卸数量 200個 原価@¥1,250

実地棚卸数量 195個 うち50個は正味売却価額@¥1,300

145個は正味売却価額@¥1,200

4. 満期保有目的債券はX0年7月1日に額面¥100につき¥95.6で取得したものであり、額面総額¥400,000、満期日はX5年6月30日の社債である。決算にあたり、月割計算に基づく償却原価法（定額法）で評価する。
5. その他有価証券の期末における時価は¥475,000である。なお、その他有価証券の評価にあたっては、全部純資産直入法で処理している。
6. 固定資産の減価償却を次のとおり行う。なお、過年度の減価償却は適正に実施されている。

建物	定額法	耐用年数	20年
		残存価額	取得原価の10%
備品	定率法	償却率	20%
		残存価額	ゼロ

7. 保険料はX0年10月1日に向こう3年分の金額を支払ったものである。
8. 借入金の内訳は次の通りであり、利払日は6月末と12月末（後払い）である。これらの借入金に対する利息の未払分を月割計算で計上する。

残高：¥40,000 返済期日：X1年8月31日 利率：年1.0%

残高：¥300,000 返済期日：X6年8月31日 利率：年2.8%

第3問 問1から問3のすべてに解答しなさい。計算過程で端数が生じる場合、計算途中で四捨五入せず、最終数値の円未満を四捨五入すること。

問1 設問1から設問3のすべてに解答しなさい。

設問1 次の資料に基づき、全部原価計算方式と直接原価計算方式の損益計算書にある空欄

(1)～(10)を埋めよ。なお、(\*\*\*)については各自計算すること。

① 生産データ

月初仕掛品	0 個
当月投入	1,200
合計	1,200 個
月末仕掛品	0
当月完成品	1,200 個

② 販売データ

月初製品	200 個
当月完成品	1,200
合計	1,400 個
月末製品	300
当月販売品	1,100 個

③ 当月製造費用

変動製造材料費	348,000 円
変動加工費	588,000 円
固定加工費	99,600 円

④ 販売費および一般管理費

変動販売費	1 個あたり 40 円
固定販売費	23,000 円
一般管理費	17,000 円 (すべて固定費)

⑤ 月初製品棚卸高 195,000円 (うち変動費176,000円)

⑥ 製品1個あたりの販売価格 1,200円

⑦ 売上原価の計算は先入先出法による

全部原価計算方式の損益計算書 (単位: 円)

I 売上高		***
II 売上原価		
1. 月初製品棚卸高	***	
2. 当月製品製造原価	(1)	
合計	***	
3. 月末製品棚卸高	(2)	***
売上総利益		(3)
III 販売費および一般管理費		
1. 販売費	(4)	
2. 一般管理費	***	***
営業利益		(5)

直接原価計算方式の損益計算書（単位：円）

I 売上高		***
II 変動売上原価		
1.月初製品棚卸高	***	
2.当月製品製造原価	(6)	
合計	***	
3.月末製品棚卸高	(7)	***
変動製造マージン		(8)
III 変動販売費		***
貢献利益		(9)
IV 固定費		
1.加工費	***	
2.販売費	***	
3.一般管理費	***	***
営業利益		(10)

設問2 全部原価計算方式の損益計算書における営業利益と直接原価計算方式の損益計算書における営業利益の差額について、数値を用いて具体的に説明せよ。

設問3 製品が古いものから順に販売されると仮定し（先入先出法）、損益分岐点販売数量を計算せよ。その際、計算過程についても具体的に説明すること。



問2 以下の問題文を読み、設問1から設問3のすべてに解答しなさい。

X社では製品Aを生産している。製品Aを1個生産するために0.5直接作業時間が必要であり、製品Aの製造原価は以下のようになる。なお、(\*\*\*)については各自計算すること。

直接材料費    2kg×@500円        = 1,000円

直接労務費    0.5時間×@1,000円 = 500円

製造間接費    0.5時間×@\*\*\*\*円 = \*\*\*円

なお、製造間接費は以下の公式法変動予算で計算されている。

変動費率                    480円／時間

固定費予算額               3,600,000円

基準操業度                5,000直接作業時間（生産能力）

製品Aの年間予定販売数量は6,000個であり、現在の工場の生産能力で十分に対応できる。製品AにアタッチメントBを追加すると、製品Aの機能を向上させることが可能であり、X社では、従来、このアタッチメントを外部から1個あたり2,500円で購入していた。

アタッチメントBの製法を検討した結果、製品Aの製造工程を流用し製造できることが分かった。アタッチメントBの年間予定販売数量は1,500個であり、直接材料費は400円／個、これを1個生産するために1直接作業時間（賃率：1,400円／時間）が必要となる。

設問1 アタッチメントBの単位あたりの製造原価を計算せよ。なお、製造間接費については各自推計すること。

設問2 アタッチメントBを自製すべきか、それとも、外部から購入すべきか？数値を用いて具体的に説明せよ。

設問3 アタッチメントBの年間予定販売数量が3,000個になるケースについて社長から問い合わせがあった。自社における生産量と外部からの購入量を示し、このケースにおけるアタッチメントBのコストを計算せよ。その際、計算過程についても具体的に説明すること。

問3 以下の(1)から(3)のすべての用語について簡潔に説明しなさい。

- (1) CFO(Chief Financial Officer)
- (2) 全部原価計算(Absorption Costing)
- (3) 残余利益(Residual Income)

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

第1問

問1

設問1

ア		イ		ウ	
---	--	---	--	---	--

設問2

---

---

---

---

設問3

---

---

---

---

問2

設問1

---

---

---

設問2

---

---

---

設問3

---

---

---

設問4

---

---

---

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

## 第2問

## 問1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				

## 問2

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

## 第3問

## 問1

設問1 (単位 : 円)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
(6)	(7)	(8)	(9)	(10)

## 設問2


## 設問3

損益分岐点販売数量 :	個

## 問2

## 設問1

円

## 設問2


## 設問3

自社生産量 :	個	外部からの購入量 :	個

## 問3

(1)	
(2)	
(3)	